

2020 年度事業報告書

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

事業概要

2020 年度は、公益社団法人日本地震学会の主要な事業である研究発表会の開催、学会誌の刊行および EPS 運営の支援、学会情報誌の刊行およびメールニュースの発行、広報紙の刊行、学会賞の表彰、国内外の関連学協会との連携等の活動を継続実施し、地震に関する学術の振興と社会への普及を図った。なお、コロナ禍の影響のため、当初の計画内容を変更せざるを得ないところもあったが、オンラインツールを活用するなど、可能な限り計画に沿って事業を実施した。

秋季大会においては、Chinese Taipei Geophysical Society (CTGS) との共同特別セッションとして、「琉球弧のジオダイナミクス」を開催するとともに、「観測地震学のフロンティア～稠密地震観測の未来像～」 「機械学習による地震学の未来の開拓」と題した 2 つの特別セッションをオンライン上で開催した。また、「島弧のジオダイナミクスー琉球弧における地震研究の発展」と題した一般公開セミナーをオンライン開催した。

地震学の知見の普及と人材育成のために、教員ウィンターミーティング、教員免許状更新講習、地震学夏の学校、ジオパーク専門員らへの地震学勉強会を開催したとともに、防災推進国民大会 2020 や埼玉県の高校地学関係の研究大会に参加した。

外部団体との連携として、防災学術連携体の活動へ参画し、日本学術会議公開シンポジウム/第 11 回防災学術連携シンポジウムにて講演を行ったほか、各関連学術団体の会合に参加するなど、情報収集や連携強化を進めた。各種団体が主催する賞に会員を推薦した。

I. 事業

1. 研究発表会・講演会等の開催

1. 1 JpGU-AGU Joint Meeting 2020

日本地球惑星科学連合 (JpGU), 米国地球物理学連合 (AGU) 及び関連する他学会と共同で JpGU-AGU Joint Meeting 2020 を開催した。地震学関係のレギュラーセッション (地震発生の物理・断層のレオロジー, 地震活動とその物理, 地殻構造, 地震観測・処理システム, 地震予知・予測, 強震動・地震災害, 地殻変動, 津波とその予測, 活断層と古地震, 地震全般) については, 大会・企画委員会がコンビーナーを務め, プログラム編成を行った。

期 日: 2020 年 7 月 12 日 (日) ~7 月 16 日 (木)

場 所: オンライン

1. 2 日本地震学会 2020 年度秋季大会

日本地震学会 2020 年度秋季大会を下記の通り開催した。参加者は 670 名 (地震学会員 558 名, CTGS 会員 6 名, 非会員等 106 名) であった。講演数は, 口頭 176 件, ポスター 141 件の合計 317 件であった (キャンセルは 0 件)。そのほかに, 2019 年度日本地震学会賞 1 名, 技術開発賞 2 名,

および若手学術奨励賞受賞者3名による受賞記念講演と授賞式（論文賞を含む）を大会初日に行った。受賞記念講演を含む20の一般セッションに加え、CTGSとの共同特別セッションとして「琉球弧のジオダイナミクス」を開催するとともに、「観測地震学のフロンティア～稠密地震観測の未来像～」，「機械学習による地震学の未来の開拓」と題した2つの特別セッションを開催した。学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした学生優秀発表賞の審査を行い、5名を表彰した。2020年度秋季大会は、沖縄県那覇市で実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響を受け、オンライン上にて開催した。

期 日：2020年10月29日（木）～10月31日（土）

場 所：オンライン

1. 3 一般公開セミナー「島弧のジオダイナミクスー琉球弧における地震研究の発展」

地震学の研究成果を一般社会に還元し、地震に関する知識を広く普及することを目的に、本年も学会員以外を対象とした普及啓発活動として、3名の講演者を招いて一般公開セミナーを開催した。3日間のセミナーに308名の参加者があった。

期 日：2021年2月18日（木）～20日（土）

場 所：オンライン

1. 4 地震の教室

12月11日（土）に埼玉県立春日部高等学校を会場として開催された埼玉県高等学校理化研究会地学研究委員会地学研究大会に参加し、地震に関する教材を紹介するポスター発表（3件）を実施した。過去の「地震の教室」での展示内容をもとにした発表であり、学校教育委員会の持つコンテンツを紹介し、埼玉県内の高校地学の関係者との情報交換の機会となった。

1. 5 「強震動予測ーその基礎と応用」講習会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため、2020年度の開催を見送った。

1. 6 教員ウィンターミーティング

地震の研究者と小・中・高等学校教員との連携と、地震教育の現状に即した知識普及活動の実現を目指して、教員ウィンターミーティング「コロナ禍での地震の教材を考える」を12月26日（土）にオンラインで開催した。2件の話題提供（「東京大学地震研究所のオンライン一般公開」と「北海道大学の教員免許講習」）と、分科会にわかれてのフリーディスカッションを行った。参加者数は合計21名（一般参加者11名、講師1名、学校教育委員会委員9名）であった。

1. 7 教員免許状更新講習

地震学に関する知識普及を行い学校における防災教育を推進することを目的として、教員免許状更新講習を実施した。日本全国の学会員および関連の専門家の協力を得て9講習を企画したが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染予防の観点から3講習の開講となった。受講者数は延べ24名であった。開催した講習の概要（期日、場所、講習名）は以下のとおりである。

期 日	開催地	テ ー マ
-----	-----	-------

1	2020年7月30日	鳥取大学	地震のしくみを知ろう・教えよう
2	2020年7月27日～8月21日	インターネットによる講習へ変更	北海道の地震・津波災害と防災対策
3	2020年12月25日	京都大学阿武山観測所	地震観測所を体験しよう

1. 8 地震火山こどもサマースクール

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため、2020年度の開催を見送った。

1. 9 若手育成企画「地震学夏の学校 2020」

若手育成のため、「地震学夏の学校 2020」をオンライン上で開催した（企画・実施：地震学夏の学校 2020 実行臨時委員会）。本年度は「ビッグデータが拓く新たな地震学への挑戦」というテーマで開催され、学部生、大学院生など 43 名（学部生 13 名、院生 16 名、講師 5 名、実行委員 9 名）の参加があった。今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点から、地震学夏の学校としては初めてオンライン形式で開催した。5 名の講師による講義のほか、例年行われている参加者によるポスター発表は、口頭発表形式に置き換え、8 名の参加者による発表が行われた。さらに、講師と参加者、ならびに、参加者相互の交流を促進するグループワークなどが行われた。

期 日：2020 年 9 月 8 日（火）～10 日（木）

場 所：オンライン

1. 10 社会活動

金森名誉会員からの寄付金をもとに設置した「社会活動基金」の活動として、防災推進国民大会 2020 に参加した。

ワークショップ 何でも聞いてみよう、中国地方の地震活動のこれまでとこれから：地震学会 住民セミナー

期 日：2020 年 10 月 3 日（土）11:00～12:30

場 所：オンライン

1. 11 ジオパーク専門員らへの地震学勉強会

ユネスコ世界ジオパークのガイドラインに沿い、地震学の基礎知識の勉強会を、日本各地のジオパーク専門員を対象に、オンラインにて実施した。参加者は 62 名であった。

地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学 4」

主 催：日本地震学会ジオパーク支援委員会

期 日：2020 年 10 月 16 日（金）13:00～15:00

場 所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

講 師：加納靖之（東京大学地震研究所）

本多 亮（神奈川県温泉地学研究所）

山口珠美（箱根ジオミュージアム）

竹之内 耕（糸魚川ユネスコジオパーク）
 中野 加織里（白山手取川ジオパーク）
 高橋 司（四国西予ジオパーク）
 三輪拓磨（八峰白神ジオパーク）
 林ちはる（三陸ジオパーク）

2. 学会誌その他の刊行物の発行

2. 1 学会誌「地震」

「地震（学術論文部）」は第73巻として15編を電子版として発行した。J-STAGEでも電子版の公開を行った。記事の内容・件数及びページ数は下記の通りである。また冊子体を隔月、計6冊を発行した。隔月冊子体を750部、また年度末に学術論文部のまとめ冊子を1,100部印刷した。

種類	件数	ページ数
論説	7	129
総合報告	1	27
史料	0	0
資料	2	26
寄書	2	15
技術報告	0	0
解説	3	42
合計	15	239

「地震（ニュースレター部）」は第73巻NL1号からNL6号までを隔月で発行した。冊子体の発行部数は、各750部であり、1号あたりの平均ページ数は37であった。掲載した主な記事の内容と件数は下記の通りである。また、冊子体を希望する会員へ「地震（ニュースレター部）」の冊子体を各号送付した。

種類	件数
記事	45
受賞	1
シンポジウム報告	8
会員の声	0
書評	3
人事公募	4
学会記事	24
シンポジウム案内	6

補助金・助成金等案内	4
合計	95

2. 2 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」

欧文学術誌「Earth, Planets and Space」を、オープンアクセスのオンラインジャーナルとして、地震学会を含む関連5学会の共同で発行した。第72巻の一部が2020年4月から同年12月に刊行され、第73巻の一部が2021年1月から同年3月に刊行された。種別ごとの件数は以下の通りである。

種類	件数
Correction	5
Express Letter	35
Frontier Letter	5
Full Paper	167
Preface	4
Technical Report	13
合計	229

2. 3 学会広報紙「なみふる」

広報紙「なみふる」のNo.121(2020年5月)～No.124(2021年2月)を各8頁、2,500部発行した。記事の内容は下記の通りである。

号・発行月	記事
121号 2020年5月 8ページ	<p>主な地震活動 2019年12月～2020年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆震災をもたらす揺れ—平成7年(1995年)兵庫県南部地震から四半世紀の間に観測された震源断層近傍強震動の共通点— ◆大型低温重力波望遠鏡 KAGRA と地殻ひずみ計 ◆「深海魚出現は地震の前兆」は本当か? <p>イベント案内 ・ 教員免許更新講習のお知らせ ・ 大学・研究所の一般公開イベント一覧</p>
122号 2020年8月 8ページ	<p>主な地震活動 2020年4月～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地震学の火星への挑戦 ◆AIが拓く新たな地震学研究 ◆天災不忘の旅 震災の跡を巡るその15 東京駅警備巡查派出所：無用の長物からの大変身 <p>コラム ・ 地震計でみる新型コロナウイルスの流行に伴う人間活動の低下</p> <p>イベント案内 ・ 日本地震学会2020年度秋季大会と一般公開セミナーのお知らせ</p>
123号 2020年11月 8ページ	<p>主な地震活動 2020年7月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナウイルス感染症流行下における災害時の避難所運営について ◆松代群発地震終息宣言から50年と2020年の上高地付近の群発地震

	<p>◆シリーズ「東北地方太平洋沖地震から 10 年」その① 前後 10 年間の地震活動</p> <p>イベント報告 ・ 地震学夏の学校 2020 開催報告</p> <p>イベント案内 ・ 教員ウィンターミーティング「コロナ禍でも学ぶ・教える地震の教材を考える」</p> <p>コラム ・ なみふるの表紙「主な地震活動」について</p>
<p>124 号 2021 年 2 月 8 ページ</p>	<p>主な地震活動 2020 年 10 月～12 月</p> <p>◆シリーズ「東北地方太平洋沖地震から 10 年」その② 2011 年東北地方太平洋沖地震はどのような地震だったのか</p> <p>◆シリーズ「東北地方太平洋沖地震から 10 年」その③ 巨大津波の発生・伝播の過程と今後の対応</p> <p>◆シリーズ「東北地方太平洋沖地震から 10 年」その④ なぜ震度 7 でも建物に大被害が出なかったのか？</p> <p>イベント報告 ・ 「今村明恒誕生 150 周年記念講演会：地震学の先駆者今村明恒と鹿児島防災」開催報告 ・ 強震動委員会第 36 回研究会「正確な震度観測を行うために」開催報告</p>

2. 4 「日本地震学会メールニュース」の発行

速報性を要するイベント情報、公募情報、学会 Web 更新情報等を会員に迅速に伝えるため、毎月 20 日前後に「日本地震学会メールニュース」No.131～No.142 を発行した。

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰

3. 1 公益社団法人日本地震学会が設ける各賞の受賞者の表彰

日本地震学会賞

2019 年度受賞対象として、理事会において下記の通り決定し 2020 年度秋季大会の場において表彰した。

受賞者：尾形良彦

受賞対象業績：地震活動の ETAS モデルと統計地震学理論の体系化

日本地震学会技術開発賞

2019 年度受賞対象として理事会において下記の通り決定し、2020 年度秋季大会会場において表彰した。

受賞者：国土地理院 GEONET グループ

受賞対象功績：GEONET の継続的長期運用技術の開発とそれに基づく地球科学への貢献

受賞者：藤田 雅之、松本 良浩、佐藤 まりこ、石川 直史、渡邊 俊一、横田 裕輔

受賞対象功績：定常的な GNSS-A 海底地殻変動観測技術の確立と地震学への貢献

日本地震学会論文賞

2019 年度受賞対象として理事会において下記の通り決定し、2020 年度秋季大会会場において表彰した。

論文賞（3 編）：

- ・ OpenSWPC: an open-source integrated parallel simulation code for modeling seismic wave propagation in 3D heterogeneous viscoelastic media
 - ・ 著者：T. Maeda, S. Takemura and T. Furumura
 - ・ 掲載誌：Earth, Planets and Space (2017) 69:102
- ・ Variations in precursory slip behavior resulting from frictional heterogeneity
 - ・ 著者：S. Yabe, and S. Ide
 - ・ 掲載誌：Progress in Earth and Planetary Science (2018) 5:43
- ・ Adjoint tomography of the crust and upper mantle structure beneath the Kanto region using broadband seismograms
 - ・ 著者：T. Miyoshi, M. Obayashi, D. Peter, Y. Tono and S. Tsuboi
 - ・ 掲載誌：Progress in Earth and Planetary Science (2017) 4:29

2020 年度受賞対象として理事会において下記の通り決定した。

論文賞（3 編）：

- ・ 角田・弥彦断層海域延長部の活動履歴—完新世における活動性と最新活動—
 - ・ 著者：大上 隆史, 阿部 信太郎, 八木 雅俊, 森 宏, 徳山 英一, 向山 建二郎, 一井 直宏
 - ・ 掲載誌：地震第 2 輯第 71 巻 (2018) 63-85 頁
- ・ 1990 年から 2016 年の間に新聞メディアで報じられた地震学ニュースの内容分析
 - ・ 著者：山田 耕
 - ・ 掲載誌：地震第 2 輯第 71 巻 (2019) 161-183 頁
- ・ Fault model of the 2012 doublet earthquake, near the up-dip end of the 2011 Tohoku-Oki earthquake, based on a near-field tsunami: implications for intraplate stress state
 - ・ 著者：Kubota, T., Hino, R., Inazu, D. and Suzuki, S.
 - ・ 掲載誌：Progress in Earth and Planetary Science (2019) 6:67

日本地震学会若手学術奨励賞

2019 年度受賞対象として理事会において下記の通り決定し、2020 年度秋季大会会場において表彰した。

- ・ 浦田 優美

受賞対象研究：物理素過程と応力場を考慮した 3 次元動的地震破壊過程の研究

- ・ 吉田 圭佑

受賞対象研究：自然地震データに基づく応力と断層強度に関する研究

- ・ 吉光 奈奈

受賞対象研究：地震発生環境の理解に向けた室内岩石実験から自然地震までの架け橋

2020 年度受賞対象として理事会において下記の通り決定した。

- ・ 麻生 尚文

受賞対象研究：多角的な視点による地震波動源物理学

- ・ 大谷 真紀子

受賞対象研究：巨大地震発生機構の理解と予測可能性に関する地震発生サイクルシミュレーション研究

- ・ 高木 涼太

受賞対象研究：地震・地殻変動多点連続観測データに基づく地球内部広帯域変動現象の研究

3. 2 公益社団法人日本地震学会学生優秀発表賞の受賞者の表彰

日本地震学会 2020 年度秋季大会に於いて、のべ 51 件の発表に対して、23 名からなる 2020 年度日本地震学会学生優秀発表賞選考委員会を組織し、選考した結果、以下 5 名を表彰した。

上田 拓 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻（博士課程 2 年）

「GNSS 変位から推定される地下での応力変化と地震活動の季節変動性」

及川元己 東京工業大学理学院地球惑星科学系（博士課程 1 年）

「巨大地震の静的応力変化が火山深部低周波地震の活動変化に与える影響の定量的評価」

柴田勇吾 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻（修士課程 1 年）

「データ同化を導入した地震波逆伝播計算による地震断層すべり分布推定の数値実験」

柴田律也 東京工業大学理学院地球惑星科学系（修士課程 2 年）

「放射パターンを補正した経験的グリーン関数と従来の経験的グリーン関数を用いた波形インバージョン結果の定量比較」

土山絢子 東京工業大学理学院地球惑星科学系（修士課程 2 年）

「深発の相似地震における震源パラメータの多様性」

3. 3 海外渡航旅費助成

公益財団法人地震予知総合研究振興会の助成により、所定の手続きを経て、学術的な目的の海外渡航のために公募を行ったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため、2020 年度の助成に応募はなかった。

3. 4 その他

第 11 回「日本学術振興会 育志賞」候補者の会員への推薦公募を行い、応募のあった 1 名について推薦の検討を行い、日本地震学会からの推薦とした。

令和 3 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞候補者の会員への推薦公募を行い、日本地震学会若手学術奨励賞受賞者の中から 4 名を推薦した。

令和 3 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞候補者および文部科学大臣表彰研究支援賞候補者の会員への推薦公募を行い、文部科学大臣表彰科学技術賞へ 1 件を推薦した。

第 18 回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について会員への推薦公募を行い、応募のあった 1 件について推薦の検討を行い、日本地震学会からの推薦とした。

朝日賞候補者の推薦について会員への推薦公募を行った。

東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成に関する募集を行った。

第 62 回藤原賞受賞候補者の会員への推薦公募を行った。

公益財団法人山田科学振興財団 2021 年度研究援助候補者の会員への推薦公募を行った。

第 37 回（2020 年度）井上学術賞候補者の会員への推薦公募を行った。

令和 4 年春の科学技術に関する黄綬・紫綬・藍綬褒章受賞候補者の会員への推薦公募を行った。

4. 内外の関連学術団体との協力・連絡

4. 1 国際学会等との連携

IASPEI 及び関連する IUGG（国際測地学・地球物理学連合）、ASC（アジア地震学会）と情報交換を行った。

4. 2 日本地球惑星科学連合の活動

公益社団法人日本地球惑星科学連合の団体会員として、連合加盟学協会との協働による関連分野の学術振興に向けた活動を進めた。

4. 3 関連学術団体との会長懇談会等

公益社団法人日本地震工学会会長との会長懇談会を 2020 年 10 月 2 日に開催した。両学会の現状やコロナ禍での学会活動等について意見および情報交換を行い、引き続き懇談会の場を設けることとした。

4. 4 日本ジオパーク推進活動の支援

ジオパーク・コンソーシアムの設立準備会議に中川和之理事が学会推薦で参加し、関係学会の委員とともにジオパーク・コンソーシアムの規約や活動内容について議論を行った。

4. 5 防災学術連携体の活動

防災減災・災害復興に関わる 58 学会・団体から構成される「防災学術連携体」の活動の一環として下記の講演会において小原会長が講演し、地震学の進展と現状に関する情報を紹介した。

「この10年間における日本地震学会の取組と地震研究の進捗」

期日：2021年1月14日

会場：東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂から全国にインターネット中継

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会，土木工学・建築学委員会，防災学術連携体
(58学会)

4. 6 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会

福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会に参加し情報収集等を行った。

4. 7 理学・工学系学協会連絡協議会

理学・工学系学協会連絡協議会に参加し，関連学協会の情報収集を行った。

4. 8 シンポジウム等の共催・協賛・後援

以下にあげる講演会・シンポジウム等の共催，協賛，後援を行った。

共催： 日本学術会議公開シンポジウム/第10回防災学術連携シンポジウム

複合災害への備えー with コロナ時代を生きる

期日：2021年1月14日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会，土木工学・建築学委員会，防災学術連携体

日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウム

東日本大震災からの十年とこれからー58学会，防災学術連携体の活動ー

期日：2021年1月14日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会，土木工学・建築学委員会，防災学術連携体
(58学会)

協賛： GPS/GNSS シンポジウム 2020

期日：2020年10月28日～31日

会場：オンライン開催

主催：一般社団法人 測位航法学会

海洋調査技術学会 第32回研究成果発表会

期日：2020年11月5日～6日

会場：オンライン開催

主催：海洋調査技術学会

第 61 回高圧討論会

期日：2020 年 12 月 2 日～4 日

会場：オンライン開催

主催：日本高圧力学会

国際シンポジウム Underwater Technology 2021(UT21)

期日：2021 年 3 月 2 日

会場：オンライン開催

主催：OES Japan Chapter, IEEE/OES, 東京大学生産技術研究所, 東京大学地震研究所

後援： 令和 2 年度教育講座「計算力学の基礎」コース

期日：2020 年 8 月 27 日～28 日・31 日・9 月 1 日～4 日

会場：オンラインセミナー形式

主催：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所

原子力総合シンポジウム 2020

期日：2020 年 9 月 30 日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会

「震災対策技術展」大阪

期日：2020 年 10 月 14 日～15 日

会場：コングレコンベンションセンター

主催：「震災対策技術展」大阪実行委員会

防犯防災総合展 2020

期日：2020 年 10 月 29 日～30 日

会場：インテックス大阪

主催：防犯防災総合展実行委員会・一財)大阪国際経済復興センター・テレビ大阪(株)

講習会「大振幅地震動に対する免震構造の設計」

期日：2020 年 11 月 5 日

会場：建築会館ホール

主催：日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会

今村明恒誕生 150 周年記念講演会 地震学の先駆者今村明恒と鹿児島県の防災

期日：2020 年 12 月 6 日

会場：鹿児島大学稲盛会館

主催：鹿児島大学地震火山地域防災センター

日本建築学会シンポジウム「東日本大震災 10 周年を機に頻発する複合災害を考える」

期日：2021 年 3 月 6 日

会場：オンライン開催

主催：日本建築学会

災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次）

令和 2 年度成果報告シンポジウム

期日：2021 年 3 月 16 日～17 日

会場：オンライン開催

主催：地震・火山噴火予知研究協議会

第 25 回「震災対策技術展」横浜

期日：2021 年 3 月 17 日～18 日

会場：パシフィコ横浜

主催：第 25 回「震災対策技術展」横浜 実行委員会

企画展「東日本大震災から 10 年－あの日からの地震研究－」

期日：2021 年 3 月 9 日～4 月 11 日

会場：独立行政法人国立科学博物館

主催：独立行政法人国立科学博物館

5. その他

5. 1 日本地震学会ホームページの管理・運営

学会の活動の広報および社会への学術的な知識普及のために学会ホームページの掲載内容の更新を行った。今年度は特に、(1) アクセス解析の実施、(2) プライバシーポリシーの掲載、(3) トップページの変換イメージを 2020 年度秋季大会に更新、などを行なった。

5. 2 なみふるメーリングリスト (nfml) の運用

地震研究者と一般の方々との意見交換の場として、なみふるメーリングリスト nfml を引き続き運用、メーリングリスト参加者同士の情報・意見交換を支援した。昨年度報告後、2020 年 3 月 18 日以降 2021 年 3 月 17 日までに 356 件の投稿があった。

5. 3 記者懇談会・記者説明会

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大の影響により、記者懇談会・記者懇親会については JpGU 時の開催は中止とした。地震学会秋季大会においては、オンラインで開催した。内容は以下の通り。

第 48 回記者懇談会 2020 年 10 月 29 日 17:30-18:43 Zoom によるオンライン開催

地震研究成果の広報のあり方について報道関係者と地震学会員で意見交換を行う記者懇談会を開催した。小原一成会長による地震学会の活動紹介に続いて、産業技術総合研究所の石川有三客員研究

員による「上高地の群発地震と松代地震」と題した講演を行った。参加者数は計 34 名であった。

5. 4 地震学 FAQ

広報委員会やメーリングリスト nfml に寄せられた一般の方からの質問で頻度の高いものから FAQ 集を作成し、本学会ホームページ上で公開している。

5. 5 社会活動基金に基づく活動

防災推進国民大会においてワークショップを開催した。

II. 参考事項

1. 定時社員総会の開催

公益社団法人日本地震学会は 2020 年度定時社員総会を開催し、2019 年度の事業報告書と収支決算報告書、役員を選任、役員報酬の議案を承認した。

・2020 年度定時社員総会

日時：2020 年 6 月 3 日（水）13:10～14:15

場所：Zoom ウェビナーを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

総社員数：140 名

出席社員数：出席代議員総数 113 名（内訳：本人出席 89 名、委任状出席 24 名）

2. 理事会の活動

公益社団法人日本地震学会は、2020 年度末までに以下のように計 7 回理事会を開催し法人の業務執行に必要な議決等を行った。

・2020 年度第 1 回理事会

日時：2020 年 4 月 22 日（水）10:00～13:55

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事数：15 名

出席者：理事 14 名、監事 3 名、オブザーバー 2 名

・2020 年度第 2 回理事会

日時：2020 年 6 月 3 日（水）14:30～15:30

場所：Zoom を利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事数：15名

出席者：理事14名，監事2名

・2020年度第3回理事会

日時：2020年7月31日（金） 10：00～13：40

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事15名，監事3名

・2020年度第4回理事会

日時：2020年9月29日（火） 10：00～13：05

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事15名，監事3名

・2020年度第5回理事会

日時：2020年11月30日（月） 10：00～13：15

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事15名，監事2名

・2020年度第6回理事会

日時：2021年1月20日（水） 10：00～13：20

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事15名，監事2名

・2020年度第7回理事会

日時：2021年3月15日（月） 13：00～16：10

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事15名，監事1名，オブザーバー2名

3. 各委員会の活動

公益社団法人日本地震学会の各委員会は、会合の開催、電子メール等を通して意見の交換を行いつつ、それぞれの業務を積極的に執行した。

3. 1 地震編集委員会

第1回委員会（2020年6月8日）をオンライン形式にて開催し、「地震(学術論文部)」の編集状況および編集作業に関して意見交換を行った。さらに、第2回編集委員会（2021年1月15日）をオンライン形式にて開催し、論文賞候補の推薦、「地震(学術論文部)」の編集状況の確認及び論文カテゴリーや査読指針等に関して議論した。

3. 2 大会・企画委員会

8回（2020年4月21日、5月28日、6月30日、7月27日、8月21日、9月16日、11月18日、2021年3月10日）開催された委員会及びメーリングリスト等において、秋季大会の準備やプログラム編成、連合大会の地震学関連セッションのプログラム編成、学生優秀発表賞の審査及び表彰方法の検討、秋季大会や地震学夏の学校の運営方法についての検討等を行った。

3. 3 広報委員会

学会の活動の広報と地震研究成果の社会への普及のために、地震学会広報紙「なみふる」を季刊で発行した。委員会を4回開催し、広報のありかたについて検討を行った。広報委員会に寄せられた質問や依頼に対する回答を行った。質問・依頼件数は4件であった。学会ホームページを運用し、ニュースレターに掲載した各種情報や「なみふる」の電子版を掲載した。nfmlメーリングリストを運営し、地震研究者と一般の方が議論を行う場を設けた。さらに、地震学会秋季大会の際に記者懇談会を開催した。

3. 4 欧文誌運営委員会

欧文学術誌「Earth, Planets and Space」(EPS)を関連5学会で引き続き刊行した。また、日本地球惑星科学連合と共同し、海外の学会などにてEPS誌の周知・普及をはかった。

3. 5 学会情報誌編集委員会

学会内広報として情報・諸行事等の周知を図るため、隔月で年6回「地震(ニュースレター部)」を発行した。さらにそれを補完し、速報性を要するイベント情報、公募情報、学会Web更新情報等を会員に迅速に伝えるため、日本地震学会メールニュースを毎月1回発行した。学会に著作権が移譲されていなかったニュースレターNo.1~10については電子版の公開に向けて手続きを進めた。

3. 6 強震動委員会

調査班B(強震動予測に関する講習会を開催、強震動委員会HPを運営)、調査班C(強震動研究会を開催)、NL連載担当、単行本化チーム、将来計画検討チームを構成し、関連の活動を行った。調査班相互の連絡・調整、各委員からの情報交換等のため、3回の委員会を開催し、ニュースレターに活動報告を行った。なお、委員会は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響のため、すべてオンラインで行った。

2020年度の強震動講習会は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため開催を見送った。強震動研究会は、2020年12月15日に第36回（気象庁地震火山部・黒木英州氏による「正確な震度観測を行うために」）をオンラインで開催し、日本地震学会内外から55名が聴講した（申込者は60名）。なお、これは当初2020年3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため延期していたものである。ニュースレターでの連載「新・強震観測の最新情報」（第5~16回）を続けた。また、連載「新・強震動地震学基礎講座」の単行本化を進めた。

3. 7 学校教育委員会

地震学と学校教育との橋渡しを担うことを目的として、以下のような活動を行った。

委員会会合を9月、10月、12月、2月にオンラインで開催し、今年度の事業実施体制、来年度の行事予定などを協議した。学校教員を主な対象とした研究会に参加し、地震に関する教材等を紹介する発表を行った。詳細は1. 4を参照されたい。教員免許状更新講習を企画し、各地で計9講習を企画し、3講習を開催した。延べ24名が受講した。詳細は1. 7を参照されたい。地震の研究者と小・中・高等学校教員との連携と、地震教育の現状に即した知識普及活動の実現を目指して、教員ウィンターミーティングをオンラインで開催した。詳細は1. 6を参照されたい。「地震学を社会に伝える連絡会議」に委員を派遣し、活動への協力を行った。公益社団法人日本地球惑星科学連合の教育検討委員会に委員を派遣し、継続的に活動への協力を行った。

3. 8 災害調査委員会

防災減災・災害復興に関する学会ネットワークである「防災学術連携体」と連携し、総会・幹事会・Web研究会に参加した。2021年1月14日に同連携体が開催した日本学術会議主催学術フォーラム／第11回防災学術連携シンポジウム「東日本大震災からの十年とこれから -58学会、防災学術連携体の活動-」に参画し、「この10年間における日本地震学会の取組と地震研究の進捗」を小原会長が講演した。また、同連携体の法人化に関する検討に協力した。日本地球惑星科学連合の環境災害対応委員会の活動に参画し、2021年大会においてユニオンセッション「連合の巨大地震・津波への対応：東日本大震災からの10年と将来」を提案した。「地震学を社会に伝える連絡会議」の活動に今年度から加わり、秋季大会で委員会活動に関するポスター発表を行なった。

3. 9 普及行事委員会

日本火山学会、日本地質学会とともに継続して開催している「地震火山地質こどもサマースクール」の連合企画委員会、運営委員会の幹事学会として、各学会のスタッフと共同で事業を推進した。2020年度の浅間山麓ジオパークでのサマースクールは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により2021年度に延期した。また、2022年度以降の開催予定地の公募を行った。

3. 10 海外渡航旅費助成金審査委員会

「2020年度後期海外渡航旅費助成金の公募について」を「地震（ニュースレター部）」第73巻第NL2号とホームページに、「2021年度前期海外渡航旅費助成金の公募について」を「地震（ニュースレター部）」第73巻第NL5号とホームページに掲載し、本助成金の公募を行った。2020年度前期・後期ともに申請者がなかったため2020年度は助成を行わなかった。2021年度前期については申請者2名の審査を行った。

3. 1 1 IASPEI 委員会

日本学術会議 IASPEI 小委員会と連携し、IASPEI および各種国際会議等に係る情報交換や活動を行っている。本年度は委員会を 1 回（1 月 5 日）開催した。2021 年 2 月 15 日開催の日本学術会議・学術フォーラム「新たな地球観への挑戦－地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献－」において、IUGG の一部として IASPEI の活動を紹介した。2021 年 8 月 21~27 日にオンラインで開催される IAGA-IASPEI 2021 大会への参加を促すため、地震（ニュースレター部）第 73 巻第 NL6 号に大会の開催情報に関する記事を掲載した。

3. 1 2 ダイバーシティ推進委員会

日本地球惑星科学連合のダイバーシティ推進委員会の活動に参加し、情報等を収集して、外部機関に対する地震学会の窓口としての役割を果たした。日本地球惑星科学連合 2020 年大会および 2020 年秋季大会のオンライン開催のため、日本地球惑星科学連合 2020 年大会の託児ルーム利用に対する一部補助、2020 年秋季大会の託児室運営は、いずれも実施しなかった。学会員の提案や問題等を広く収集するために、ダイバーシティ推進委員会のメールアドレスは学会員専用ホームページで引き続き公開している。

3. 1 3 倫理委員会

会員へ地震学者の行動規範の遵守について周知を図った。

3. 1 4 表彰委員会

委員会の活動は主にメールでの意見交換及び審議を行った。その他、秋季大会でのオンライン授賞式の運営及び外部の助成金や表彰制度への推薦対象者の公募・推薦を行った。

3. 1 5 地震学を社会に伝える連絡会議

「社会に対して“等身大”の地震学の現状を伝えていくこと」を目的に、ホームページ担当と地震予測・予知問題を担当する委員、普及行事委員会、学校教育委員会、広報委員会、強震動委員会、ジオパーク支援委員会、大会・企画委員会、学会情報誌編集委員会、および、災害調査委員会から連絡委員をメンバーとして計 4 回の会議を開催した。2020 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、全てオンラインでの活動となった。各委員会等で進められている社会活動の情報交換と地震学の広報にかかる連携を深めるとともに、秋季大会において社会活動を紹介するポスター展示をオンラインで行い、これらポスターを学会ホームページで公開した。さらに秋季大会で予定した一般公開セミナーを、大会とは分離して 2021 年 2 月 18 日（木）～20 日（土）の 3 日間オンラインで開催した。一方、東日本大震災における経験を踏まえて、南海トラフ地震の臨時情報の発表や大規模な震災が発生した場合の学会としての対応の仕方、および、オンラインでの学会発表やセミナー等におけるデジタルコンテンツの公開の方法などについての検討を行った。

3. 1 6 ジオパーク支援委員会

日本各地のジオパーク活動の支援を通じて、地震学の知識の普及と啓発、研究の促進に寄与するため、以下のような活動を行なった。委員会会合を 7 月、12 月、1 月及び 3 月に開催し、今年度の

事業実施，来年度の事業予定などについて協議した。連合大会ジオパークセッションの企画・運営に携わった。10月16日にジオパーク専門員を対象とした地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学4」をオンラインで開催し，62名の参加者があった。

3. 17 機関連絡員

各機関での人事異動や学位論文などに関する情報収集を行った。

4. 会員の現況

本年度末現在の公益社団法人日本地震学会の会員数及び前年度比の増減は次の通りである。

会 員 種 別	名誉会員	正会員	賛助会員	合計
2019年度末会員数	21	1777	56	1854
2020年度末会員数	20	1696	56	1772
増減	-1	-81	0	-82

5. 役員

本年度公益社団法人日本地震学会の役員は，次の通りである。なお，全員非常勤である。

理事（会長）	小原 一成 会務の総理・倫理担当
理事（副会長）	久家 慶子 連絡会議担当（副）・国際担当・ダイバーシティ推進担当
理事（副会長）	久田 嘉章 総務，財務統括・連絡会議担当（正）・連合担当
理事（常務理事）	中島 淳一 総務担当
理事	吾妻 崇 災害調査担当
理事	加納 靖之 学校教育担当
理事	齊藤 竜彦 欧文誌担当
理事	酒井 慎一 海外渡航旅費助成金審査担当・表彰担当
理事	佐藤 利典 広報担当
理事	豊国 源知 学会情報誌編集担当
理事	中川 和之 普及行事担当・ジオパーク担当
理事	西田 究 会計担当
理事	干場 充之 強震動担当
理事	行竹 洋平 地震編集担当
理事	綿田 辰吾 大会・企画担当
監事	山岡 耕春
監事	横井 俊明
監事	鈴木 善和

（2020年6月3日就任）

2020 年度事業報告書の附属明細書

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

2020年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34 条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しない。